

再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担 当 課:道路局 国道・技術課

担当課長名:西川 昌宏

事業名	一般国道178号 城崎道路			事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局	
起終点	自:兵庫県豊岡市城崎町飯谷 至:兵庫県豊岡市新堂					延長	7.4km	
事業概要								
山陰近畿自動車道は、鳥取県東部、但馬、京都府北部の各地方生活圏を連絡するとともに、中国横断自動車道姫路鳥取線、北近畿豊岡自動車道及び京都縦貫自動車道等との連携により広域的なネットワークの形成を図る延長約120kmの路線です。 そのうち、城崎道路と大宮峰山道路は、ミッシングリンクの解消により、災害に強い道路ネットワークの確保、走行時間短縮による救急医療活動、観光振興の支援を目的とした道路であり、国による直轄権限代行により整備を行っています。								
R5年度事業化			R3年度都市計画決定		用地未着手		工事未着手	
全体事業費		約1,150億円		事業進捗率 (令和7年3月末時点)		約1%		供用済延長 -km
計画交通量		4,700台/日						
費用対効果分析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体)		総便益 (残事業)/(事業全体)		基準年	
	1.6(0.3)	6.8(0.0)%	1,754/6,846億円		1,042/10,811億円		令和7年	
	2.0(0.4) [2%]		事業費: 1,688/6,551億円		走行時間短縮便益: 938/9,479億円			
	2.4(0.6) [1%]		維持管理費: 66/221億円		走行経費減少便益: 91/1,122億円			
	(残事業)	(残事業)	更新費: 0/73億円		交通事故減少便益: 13/210億円			
	0.6(0.3)	1.2(0.0)%	(事業全体)		(残事業)			
0.8(0.4) [2%]	交通量		B/C=1.4~1.7(±10%)	交通量	B/C=0.53~0.65(±10%)			
1.05(0.6) [1%]	事業費		B/C=1.5~1.6(±10%)	事業費	B/C=0.54~0.66(±10%)			
		事業期間	B/C=1.6~1.6(±20%)	事業期間	B/C=0.56~0.62(±20%)			
事業の効果等								
①交通混雑の緩和								
・城崎道路及び大宮峰山道路の並行区間である国道178号・国道312号では、沿道施設の開発や交差道路が多く信号交差点が多いことにより交通混雑が発生している。								
・本事業の整備後は、城崎道路及び大宮峰山道路を利用した新たなルートが確保され、旅行速度の向上や所要時間の短縮が期待される。								
②交通安全性の向上								
・城崎道路及び大宮峰山道路の並行する国道178号・国道312号では、交通事故の発生割合が高く、交通混雑に起因すると考えられる追突事故が約6割を占めている。								
・本事業の整備後は、城崎道路及び大宮峰山道路への交通の転換による交通混雑の緩和により、交通事故の減少が期待される。								
③救急医療体制の支援								
・与謝野町の京都府立医科大学附属北部医療センターが平成21年より医療機能を充実・強化し、町内以外の広域的な受け入れを開始。京丹後市からの救急搬送数は約2倍に増加。豊岡病院への救急搬送数も増加傾向。								
・城崎道路及び大宮峰山道路の整備により、救急搬送時間の短縮、搬送患者の負担軽減が期待。								
④ミッシングリンクの解消								
・城崎道路及び大宮峰山道路の整備により、北近畿豊岡自動車道や京都縦貫自動車道に接続し、日本海側のミッシングリンク解消に寄与し災害時等の代替路の確保や被災時の道路啓開のための基幹ルートの確保、主要拠点への進出に貢献。								
⑤観光資源へのアクセス強化								
・但馬・丹後・中丹地域には、城崎温泉や玄武洞公園、天橋立や琴引浜をはじめとする魅力的な観光資源を有し、年間1,500万人を超える観光客が来訪している。								
・城崎道路・大宮峰山道路の整備により日本海沿岸地域の観光資源へのアクセス性が向上し、観光振興への支援が期待される								

関係する地方公共団体等の意見

兵庫県知事：

一般国道178号 城崎道路の「事業継続」の方針に同意する。

山陰近畿自動車道は日本海国土軸を形成し、北近畿豊岡自動車道と直結することで、環日本海地域の交流促進だけでなく、阪神間等との観光・物流・経済の交流を一層促進させ、地域の発展に大きく寄与する道路である。

城崎道路は、山陰近畿自動車道の一部区間であり、大規模災害発生時におけるリダンダンシーの確保、3次救急医療病院や多様な観光拠点・観光資源へのアクセス向上など、重要な役割を担っている。

令和5年度に事業着手し、これまで着実に調査・設計が進められているところであり、早期工事着手に向けて事業推進に取り組んでいただきたい。

なお、事業の実施にあたっては、資材価格が高騰している状況ではあるものの、より一層のコスト縮減に努めていただきたい。

豊岡市長：

（期待する効果）

山陰近畿自動車道が整備されることによって、危機管理、命、大交流の道として、但馬地域の安全・安心、地域活性化に多大な効果を発揮します。また、第3次救急医療機関へのアクセス向上や、災害に強い安心で安全な道路ネットワーク機能が確保されます。あわせて、広域的な道路ネットワークが形成されることで、観光振興や人々の交流を促進することができ、地域活性化の原動力になることが期待されます。

道路整備に期待される効果の一日も早い発現のため、早期開通をお願い致します。

①危機管理の道（災害に強い道路ネットワークの確保）

- ・日本海側のミッシングリンク解消に寄与し、災害時等の代替路、道路啓開のための基幹ルートの確保、および復旧や復興を促す輸送路として期待

②いのちの道（第3次救急医療機関へのアクセス向上）

- ・広大な但馬地域唯一の第3次救急医療機関である公立豊岡病院への搬送時間を短縮でき、生存率を高め後遺症を軽減させる道路として期待

③大交流の道（広域的な道路ネットワークによる観光振興・地域活性化）

- ・城崎温泉など但馬地域には魅力的な観光資源が点在しており、観光資源への集客や交流人口の増加に伴う観光産業への支援、物流の利便性向上、効率化による地場産業の活性化に期待

（取り組み）

①危機管理の道

- ・豊岡市道路整備計画に基づき、防災や交通安全の機能を高めると共に、地域ネットワーク充実のための市道整備

②いのちの道

- ・医療介入までの時間を大幅に短縮するドクターカーの運用。（平成22年度に公立豊岡病院に導入）



③大交流の道

- ・「観光イノベーション」により、地域の関係者の力を結集し、地域経済の活性化を推進

事業評価監視委員会の意見

審議の結果「一般国道178号城崎道路」は、事業の必要性等に関する視点、事業の進捗の見込みの視点から継続が妥当と判断できる。

引き続き事業を推進し、早期の開通を目指すことが適切である。

<p>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</p> <p>沿線地域の人口は近年減少傾向、世帯数・自動車保有台数は横ばい傾向であるものの、過去10年間に通行止めが7回発生するなどの課題が生じている。</p>	
<p>事業の進捗状況、残事業の内容等</p> <p>令和5年度事業化、用地取得進捗率0%、事業進捗率約1%(令和7年3月末時点)</p>	
<p>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</p> <p>引き続き事業を推進し、早期の開通を目指します。</p>	
<p>施設の構造や工法の変更等</p> <p>今後も、技術の進展により新技術・新工法の採用など、コスト縮減に努めながら事業を推進していきます。</p>	
<p>対応方針</p>	
<p>対応方針決定の理由</p>	
<p>以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。</p>	
<p>事業概要図</p>	
<p>【位置図】</p>	<p>【概略図】</p>
	

- ※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。
- ※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)
- ※B/Cの値は、鳥取西IC付近～宮津天橋立ICを対象とした場合、()書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用分析結果。